

第2回肝炎対策推進協議会  
2010年8月2日

## 医療従事者と患者の相互連携による治療 推進の取り組みについて

慶應義塾大学看護医療学部  
加藤眞三

# 肝臓病教室による情報提供の試み

---

- 1992年都立広尾病院にて開始した。
- きっかけは、自分自身のストレス。
- インターフェロンの治療が開始された時期。

## 初期の問題意識

- ▶ 3分間診療では十分な説明ができない。
- ▶ 患者の間には同じような質問や疑問が多い。
- ▶ 情報化社会の中にあって、病気に関する情報は増えているが、質に問題がある。



# 肝臓病教室による情報提供

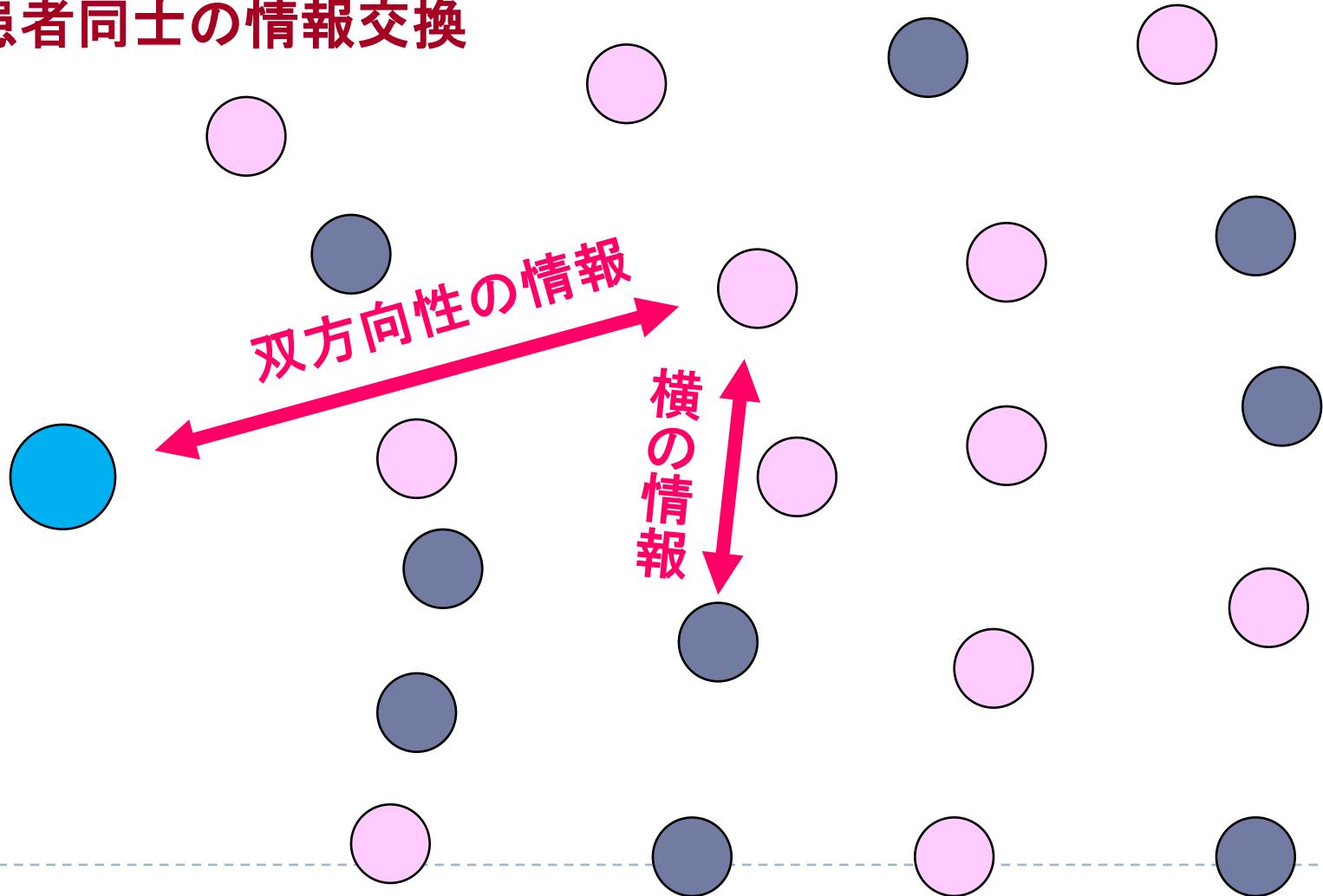
---

- 約2時間を1回とし、4回を1コースとする。
- 月に1度開催する。
  1. 肝臓病と日常生活の注意
  2. 慢性肝炎とは；インターフェロンと抗ウイルス療法
  3. 肝硬変について；合併症とその治療
  4. 肝臓病の検査では何をみているのか。
- ▶ 必要と思われる医療知識の提供  
(病気について、感染対策、検査や治療法の説明)



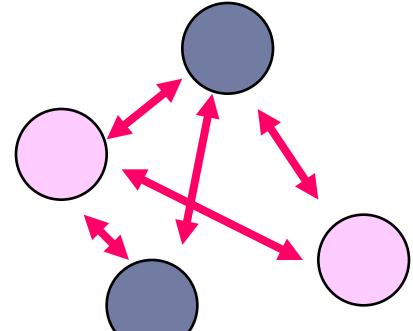
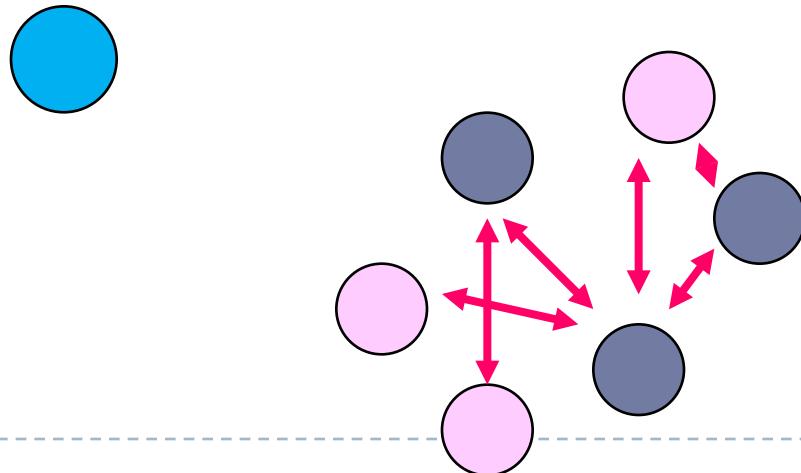
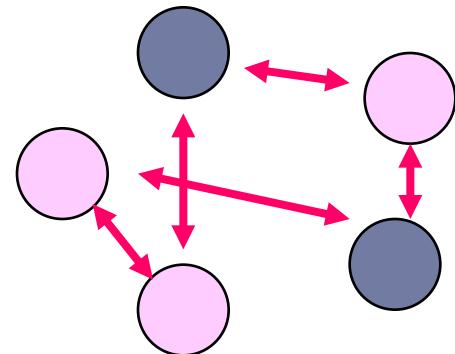
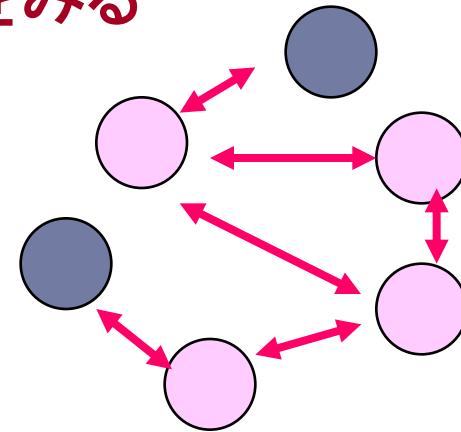
# 質疑応答の重視

- 患者の知りたいことを中心に
- 患者同士の情報交換



# グループワーク方式

- 患者同士の情報の交換
- 他人の中に自分を見る
- 共感と励まし



# グループワーク方式

---

- ▶ 目的：医師からの一方的な情報提供だけでなく、患者同士の情報提供を生かす。
- ▶ 背景； 患者への情報には、医師からのものよりも患者同士の方が有益なものもある。
  - ▶ 肝生検、TAE, PEIT, RFなどの体験談
  - ▶ こむら返り、だるい時、疲れた時、落ち込んだ時にどう対処しているかなど
- ▶ 結果； 患者は、自分の病気の将来像を他の患者の中に見ることができる。
  - ▶ 肝硬変や肝臓癌の他の患者に将来の生活を知る。
  - ▶ 慰めあい。励ましあい。共感がうまれる。
- ▶ 必要時には医療者からアドバイスをくわえる。



# グループワークでのルール

---

- ▶ 何を； 肝臓病により不安に思っていること、困っていることなどを相談してください。
- ▶ 誰から； 新しく参加した人や最も相談をしたい人を優先してください。
- ▶ 時間； 一人の話は約3－5分間を目安としてください。
- ▶ プライバシーの尊重； 最初に自己紹介を短くして下さい。本名でなくても、仮名やニックネームでも結構です。
- ▶ 意見交換； 自分の意見を参考までにのべて、他人に押し付けないように。
- ▶ 医療者の補助； 医療者からの意見を聞きたい時には、手を挙げて呼んでください。

# あるC型慢性肝炎患者からの手紙

数年前、区の「お誕生日検診」によりC型肝炎であることが判明しました。

その時は、「輸血もしたこともなければ、お酒、タバコの経験もないのに何で私が！」と一瞬血が引く思いがしました。やがて、徐々に悔しくて残念な思いが募ってきました。自覚症状もありませんでした。

しかし、こんなことをくよくよといつまでも悩んでいても前進がない。前向きに考えねばと近くの病院を訪ね治療を受けました。

(中略)

そんな時、加藤先生から「肝臓病教室にいらっしゃい」と声をかけていただきました。どんなものかと恐る恐る参加させていただきました。

「肝臓病と日常生活」というテーマでした。スライドをつかった加藤先生のわかりやすい説明で、あっという間の2時間でした。その帰り何となく肩の荷がすっと降りたような思いをしました。

肝臓病教室の参加を重ねるごとに、だんだん「私はC型肝炎であるが、そんなに悪い状態ではないのだ」という思いが強くなってきました。約30分のグループワークで、色々のかたのお話を聞くにつけ、特にその思いが確信に近づいてきました。  
(中略)

一時減った体重も今は元に戻り、ストレスをためないように楽しく暮らしています。

# 肝臓病患者の持つ不安の原因と対処

- ▶ 自分が良く知らないことに起因。  
情報の不足
- ▶ インテレクチュアルペイン
  - ▶ 病気の進行は。
  - ▶ 新しい治療法。
  - ▶ 新しい検査。侵襲のある検査。
  - ▶ 感染症としての不安。
  - ▶ がんとはどんなに悲惨か？
  - ▶ どんな日常生活ができるのか？ 安静を強いられる。

- ▶ 病気を抱えて生じる回答のない  
生の根源的な悩み
- ▶ スピリチュアルペイン
  - ▶ どうして私が。
  - ▶ がんになつたらどうしよう
  - ▶ 死後にはどうなる
  - ▶ 自分が生きている意味は
  - ▶ 他人に迷惑をかけたくない
  - ▶ 私が死んでしまつたら家族は？

- ▶ 傾聴
- ▶ グループワーク



# 終末期肝がん患者とスピリチュアルケア

その病気のことをしっかり理解し、日々を落ち着いて安心してすごせたこと幸せでした。

最後には、病室へ先生が訪れて下さるだけで、主人は元気と勇気と自信を取り戻しておりました。

それが患者とその家族にとってどれ程嬉しく有難いことだったか・・・

▶ 肝臓病教室のすすめ  
(メディカルレビュー社) より

加藤先生

先生の患者にされて主人は幸でござ  
先生の診察に全幅の信頼をもって診  
い下さったことは、私たちは幸でござ  
る。常に病状のこととしっかり理解して頂き落  
ちつかない所でござつた幸でござ  
る。

最後には、病室へ先生が訪れて下さった際に主人は元気と  
勇気と自信を取り戻してありました。それも患者と私の家族に  
どれ程嬉しく有難いことだった幸でござ  
る。....

改めて、ここに心よりの感謝の気持ちを込めて主人へいつも  
申しあげます。以上2つの文章を記させて顶きます。

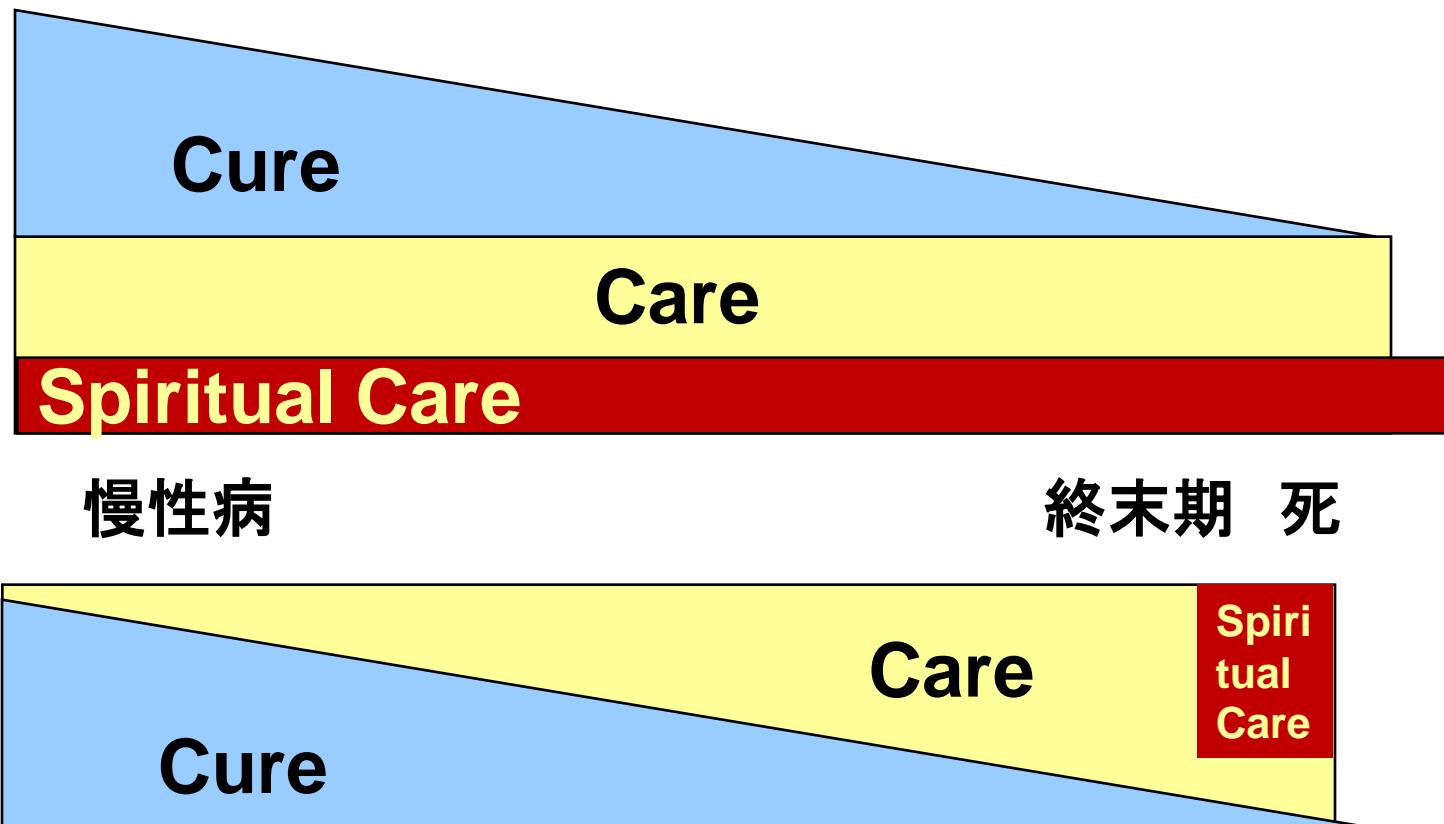
“加藤先生の医師、常に患者への接し方、誠実で本当に  
医療では、人柄からして診察では、オレは病院に来て  
ほしくない、アラフォーでうけていた。加藤先生の患者に  
下されることはいつもラフでうけて、先生にすべてを任せ  
自分でしっかり理解して何の不満もござ  
いません。”

改めて、先生の心地よい患者さんでした。先生の優しい  
言葉に感動して、祈り申し上げます

02. 2. 25. 青山芳美

# CureとCareの関係の見直しを

これからの  
医療



現代医学

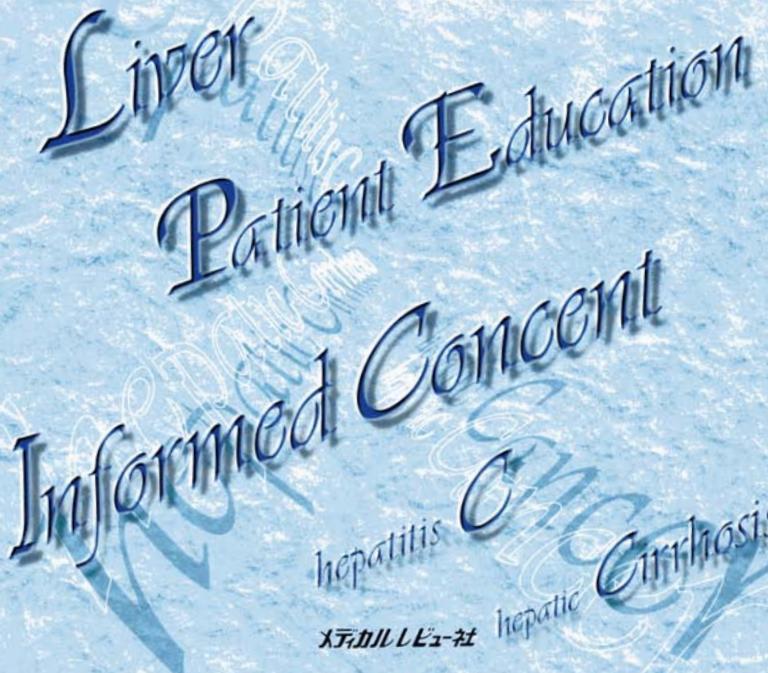


# 肝臓病教室のすすめ

—新しい医師・患者関係をめざして—

編著：加藤 真三

慶應義塾大学医学部消化器内科講師



肝臓病教室のすすめ  
—新しい医師・患者関係をめざして—  
加藤真三  
メディカルビュー社 2002年

患者教育用スライドのCD-ROM付

